

2018
2015

5 / 1 ・ 20

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/有田 洋明 編集人/樋口 浩之
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

自治労連家計簿調査
にご協力ください

調査期間6月1日~30日

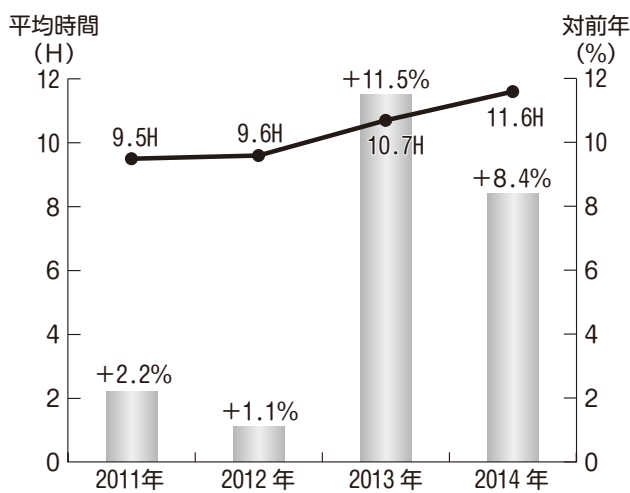
調査いただいた方には1000円
相当の図書券を進呈します。

増え続ける残業 無理な人員削減で

限界職場に!?

住民のために仕事のできる職場を

1人1月あたりの平均残業時間の推移



この数年、府職員の時間外労働は増加し続けています。2014年度の1人1月あたりの平均時間数は前年度比で8.4% (11.6時間) も増えています。年間360時間の上限規制を超えている職員も約688人となり、前年度に比べて15.6%増えています。

そもそも、公務員の時間外労働は「臨時の必要がある場合」に限って認められています (地公法33条)。ここで言う「臨時の必要」とは、災害など住民の生命、財産等にかかわる通常予見しがたい突発的な事由が発生した場合を予定しているものです。しかも、33条による時間外労働は、際限なく可能というのではなく、あくまで必要限度の範囲内とされています。

業務量が増加したり、恒常的に残業が発生している

この数年、府職員の時間外労働は増加し続けています。2014年度の1人1月あたりの平均時間数は前年度比で8.4% (11.6時間) も増えています。年間360時間の上限規制を超えている職員も約688人となり、前年度に比べて15.6%増えています。

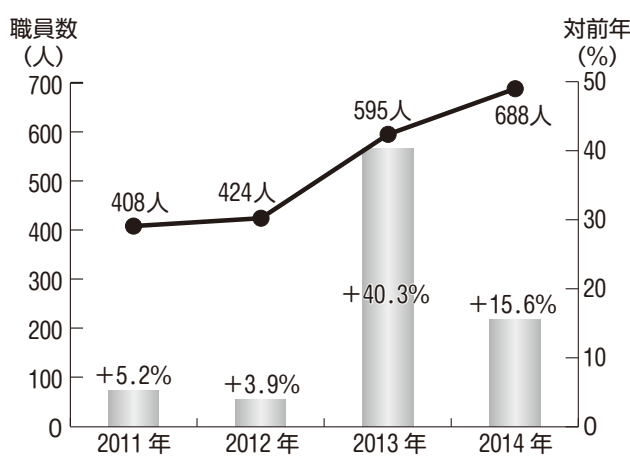
「は不可欠です。職員が健康で働き続けることのできる職場が必要です。業務量に見合った人員を配置せ

ず、日常的な長時間労働を強いて、職員の健康を破壊することは、住民サービス

を低下させるものです。

大阪府人事委員会の意見 (抜粋)

1人年間360時間上限規制を超えている職員数の推移



住民の暮らしに寄り添い、誰もが安心して生活できるようにサポートするのが自治体の仕事です。そのため、職員はさまざまな専門性をいかして奮闘しています。「住民全体の奉仕者」として、住民のために仕事をすることは「マンパワ

間外勤務は本来、緊急かつ例外的なものに限られており、年間360時間の時間外勤務が、協定における上限基準とされている。長時間の時間外勤務が続くことにより、職員の健康やワーク・ライフ・バランスへの影響はもとより、公務能力の低下や人材の確保などにも影響が懸念され、特に、職員が心身の不調により休業状態に陥ることは、職員個々の問題のみならず、限られた人材資源を活用できない状況を招くことで府民サービスの低下も危

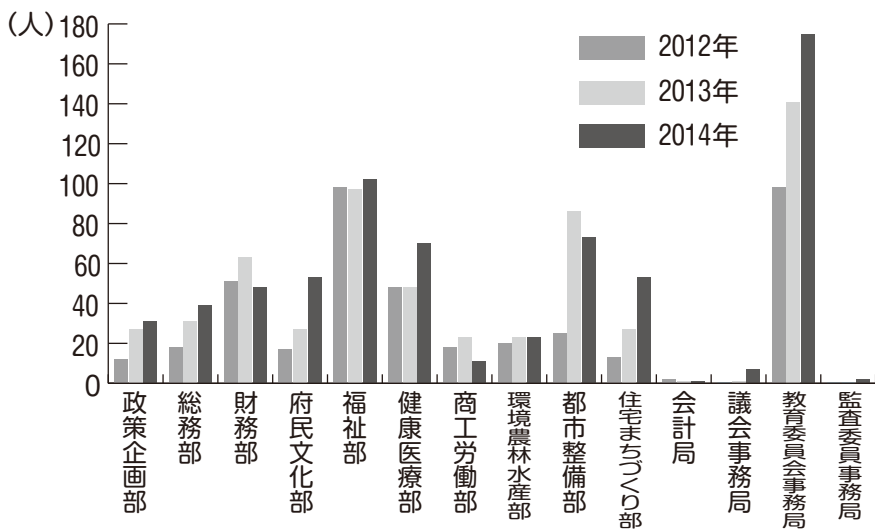
大阪府人事委員会の意見 (抜粋)

◆時間外勤務は本来、緊急かつ例外的なものに限られており、年間360時間の時間外勤務が、協定における上限基準とされている。長時間の時間外勤務が続くことにより、職員の健康やワーク・ライフ・バランスへの影響はもとより、公務能力の低下や人材の確保などにも影響が懸念され、特に、職員が心身の不調により休業状態に陥ることは、職員個々の問題のみならず、限られた人材資源を活用できない状況を招くことで府民サービスの低下も危

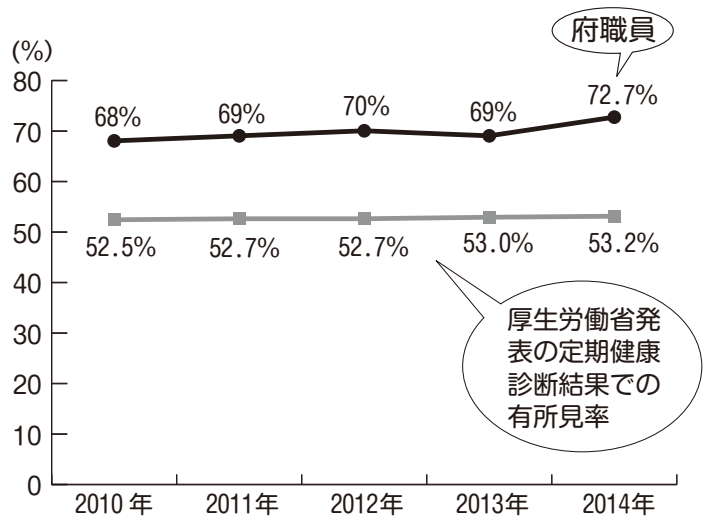
◆年間360時間の時間外勤務が、協定における上限基準とされている。長時間の時間外勤務が続くことにより、職員の健康やワーク・ライフ・バランスへの影響はもとより、公務能力の低下や人材の確保などにも影響が懸念され、特に、職員が心身の不調により休業状態に陥ることは、職員個々の問題のみならず、限られた人材資源を活用できない状況を招くことで府民サービスの低下も危

◆職員基本条例に基づき、職員数管理目標に基づき、前年度の定数に一定率を乗じた削減を基本として職員数の削減に取り組んでいるところである。このような考え方による職員数削減が時間外勤務の状況にどのような影響を与えているのかについても検証される必要がある

部局別 年間360時間上限規制を超えている職員数



府職員の一般定期健康診断結果での有所見者の推移



ない」と強く感じる。(一)

17日の住民投票は僅差で反対多数となった。橋下市長も松井知事も今回の住民投票を「究極の民主主義」と言うが果たしてそうなのだろうか。民主主義は民主的に話し合いが重ねられ、みんなの一致点を見出すことが何より重視されなければならない。市民を対立させ、短期間に二者択一を迫ることは民主主義とは相容れない乱暴やり方だ。現に多くの人が「よく分からない」と言っている。どうやって働きやすい、暮らしやすい大阪をつくるのか、元氣な活気のある大阪にするのか、立場や意見の違いがあってもしっかりと話し合い、みんなの一致点を見出すことが大切だ。そのため議会があり、府・市職員も住民の声に真摯に耳を傾け、行政に反映させなければならないのだ。今回の結果は、知事や市長の独断や議会の数力で強行するのではなく、みんながよく話し合っ

遊歩道

投票は僅差で反対多数となった。橋下市長も松井知事も今回の住民投票を「究極の民主主義」と言うが果たしてそうなのだろうか。民主主義は民主的に話し合いが重ねられ、みんなの一致点を見出すことが何より重視されなければならない。市民を対立させ、短期間に二者択一を迫ることは民主主義とは相容れない乱暴やり方だ。現に多くの人が「よく分からない」と言っている。どうやって働きやすい、暮らしやすい大阪をつくるのか、元氣な活気のある大阪にするのか、立場や意見の違いがあってもしっかりと話し合い、みんなの一致点を見出すことが大切だ。そのため議会があり、府・市職員も住民の声に真摯に耳を傾け、行政に反映させなければならないのだ。今回の結果は、知事や市長の独断や議会の数力で強行するのではなく、みんながよく話し合っ